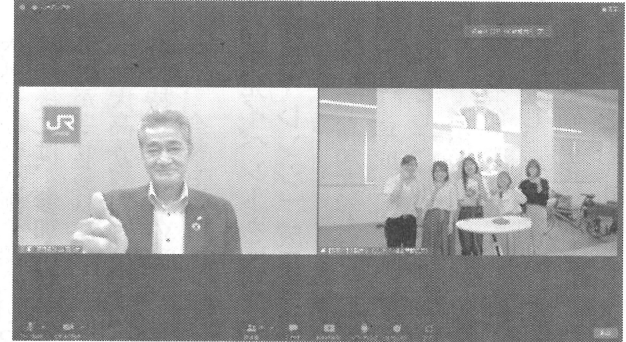


明され、続いて、幹事校代表として、高知大の櫻井克年学長が挨拶した。

さらに、4大学の学内審査会で選出された8チーム(各大学2チーム)の企画発表が行われ、高知大からは、大學生によるマナー講座や布師田車両基地訪問などを通して交通マナーを学ぶ「マナーを楽しく学ぼう!」、高知県幡多地区を中心とした環境学習を通して科学を学ぶ「カガクな高知を大冒険ツアー」の二つのプランについて発表が行われた。

すべての企画発表が終了後、4大学の学長やJR四国及び金融機関関係者ら27名による審査が行われ、金賞1チーム、銀賞1チーム、



JR四国の半井会長と、金賞に選ばれた徳島大「美郷チーム」

銅賞2チームにはそれぞれ表彰状が贈られた。続いて、JR四国の半井真司代表取締役会長から講評と閉会の挨拶が述べられ、大いに盛り上がった審査会と成果発表は幕を下ろした。



審査会などに参加した四国4大学の学生ら

国際的に活躍する研究者を目指して

広島大留学生が附属高校の講義に参加



広島大附属高校でのFS講義

広島大学では去る10月18日、同大附属高校での「スーパーサイエンス・ハイスクール」FS(フロンティアサイエンス)講義『大学国際化・異文化間理解』国際的に活躍する研究者を目指して(英語・日本語)(森戸国際高等教育学院、恒松教員担当)に、留学生(海外在住、東広島)がオンラインで参加した。大学の国際化や異文化間理解での課題、カルチャーショック・逆カルチャーショックに関する講義には、同高校1年生約200人が受講した。海外からはアメリカ、メキシコの交換留学生・留学生OBが参加した。

広島大に留学中のインドネシア・マレーシア・中国の大学院生も参加し、留学生のさまざまな体験について聞くことができた。高校生にとって、世界の留学生とオンラインで英語によりつながる新しい国際教育の体験の場となり、熱心に聞き入る姿がみられた。広島大では、世界のグローバルネットワークとつながる高大接続の授業を発展させる方針だ。



質問に答える学生

おむつに光る「おやすみシール」 滋賀大教授がユニ・チャームと共同研究



滋賀大学教育学部の大平雅子教授が、ユニ・チャーム(株)と共同研究で、「おやすみシール」を開発した。

タイルの影響で十分な睡眠時間を確保できる「おやすみシール」を開発した。

おやすみシール>

